

平成26年度人権啓発講演会(廣畑研二さん)講演概要



新宮市では平成 26 年 9 月 4 日、田辺市出身で栗須七郎氏の孫にあたる日本近代史研究者の廣畑研二さんをお迎えし、『熊野の近代と水平の行者 栗須七郎』をテーマに新宮商工会議所で人権啓発講演会を開催しました。廣畑さんは、約 250 人の来場者を前に、差別をなくすために活動した栗須七郎氏の生涯や熊野とのかかわりについて講演しました。また、講演会では今後の参考とするためアンケートを実施し、約 64%の方からご協力をいただきました。その中で、「大変よかった」「勉強になった」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



あらゆる差別と闘い続けた「水平の行者 栗須七郎氏」は、田辺市本宮町（旧本宮町）の被差別部落で生まれた。看護兵として日露戦争に出征し、12 発の銃弾を浴び瀕死（ひんし）の重傷を負いながら十数名の負傷者を救う活躍をした。その後は盲貫弾の後遺症に悩まされることになるが、栗須氏の思想形成に大きな影響を及ぼす人との出会いの時期でもあった。大正 4 年に本宮村役場で起きた差別事件にかかわり、村長糾弾（きゅうだん）闘争を指導した。この闘争をきっかけに、堺利彦ら社会主義者との交流もあり、演説会では大勢の人を集める人物であった。大阪にあった自宅では「水平道舎」と称し、在日朝鮮人少年らを書生に迎え「学ぶことの大切」を実践した。



「大逆事件で最大の犠牲をはらった熊野の近代史と栗須七郎の実践は、人間の自由を求め、不当な圧力に抵抗する草の根の歩み」。個人の顕彰碑が没後 40 年以上にわたり、熊野地方に 6 基も建立されていることを紹介し、栗須の無私無欲「水平道」によるものとも言えると、栗須氏の生涯を論賛されました。

講演する廣畑 研二氏（新宮商工会議所） 平成 26 年 9 月 4 日